

## ■効果の見える治水事業

### 徳島県 穴吹川 総合流域防災事業(情報基盤)

あなぶきがわ

徳島県 西部総合県民局 県土整備部 副部長  
伊藤 好美



○事業概要 穴吹川は、剣山を源流とし美馬市を流れ吉野川へ注ぐ、流域面積約200km<sup>2</sup>、流路延長約42kmの一級河川です。穴吹川は、四国の一級河川の中で、16年連続で河川水質ランキング1位となっており、夏季を中心に県内外から多くの方が、デイキャンプなどで訪れております。

しかし、近年、気候変動などにより、局地的集中豪雨(ゲリラ豪雨)が、全国各地で発生し、多くの被害が発生しております。これに加えて、穴吹川は、99%以上が山地であるという流域特性であるため、出水時には、河川の水位が短時間で急激に上昇する恐れがあります。そこで、穴吹川の中でも、利用者の多い河川敷に河川警報装置の設置を行いました。

この装置は、穴吹川の流域で大雨または洪水の注意報、警報が発令されると、自動的に赤色回転灯とスピーカーで、河川敷利用者に注意を呼びかける装置です。また、看板を設置し、注意を促すとともに、QRコードを利用した徳島県ホームページの水位情報もお知らせしております。

河川敷利用者の方には、これらの装置、看板を活用し、急な増水による水難事故防止に努めていただきたいと考えております。また、我々が、小学生を対象に行っている「河川環境学習～川を学ぼう～」をとおして、河川環境や水難事故に関する啓発活動に取り組んで参りたいと考えております。

- 施行箇所 美馬市穴吹町
- 施行期間 平成22～23年度
- 施行内容 河川警報装置設置3箇所

#### 位置図



#### ふれあい広場



(平常時)

#### 警報装置



#### 天神の瀬



(出水時)

#### 二又の瀬



#### 看板



## 治水安全度の向上と自然環境との調和

徳島県美馬市長 牧田 久



美馬市は徳島県西部に位置し、四季折々の風情が美しい日本百名山に数えられる剣山をはじめ大滝山、竜王山などの山々や、日本三大河川の一つで四国三郎の異名を持つ「吉野川」そして、16年連続水質四国一の清流「穴吹川」など豊かな自然に囲まれた風光明媚なまちであります。

また、古い商家のたたずむ「うだつの町並み」や歴史情緒あふれる「寺町」また、四国最大級の前方後円墳である段の塚穴などに象徴されるように、古来より県西部の政治経済の中心地として栄えてきました。

剣山をはじめ吉野川、穴吹川は、普段は観光名所として、沢山の観光客を集め、私たちの心にいやしやすさを与えていますが、いざ出水になると毎年のように河川の氾濫や地すべり、山腹崩壊が発生するなど地域住民にとって大きな脅威となっていました。

特に穴吹地域は、昭和50年、昭和51年の台風において、土石流や大規模な地滑りが発生し、多数の家屋が流失、全壊するなど未曾有の大災害となりました。

しかし、この災害を教訓に治水の重要性というものが改めて認識され、国や県のご配慮をいただき、市民の安全・安心を守るための砂防堰堤をはじめ溪流保全工、床固工、護岸工など砂防施設の整備やデイキャンプなどで利用者の多い河川敷に河川警報装置を設置するなど、穴吹川の治水安全度の向上が図られてきました。また現在進められている穴吹川総合流域防災事業では、生態系や景観に配慮した魚道整備等の治水事業を推進するなど、住民が親しみやすい自然環境との調和ある取り組みは、将来型の体験といやししが得られる観光地として大きな期待を寄せているところです。

このほか、美馬市には「川を治めるにはまず山を治めるべし」我が国の近代砂防の祖と称されたオランダ人技術者ヨハネス・デ・レイケの「水害は河川流域の森林伐採による土砂の流出によって引き起こされる」という理念を基に明治20年頃に築堤されたデ・レイケの堰堤があり、その技術の確かさから現在でも大谷川の治水に寄与しています。

最後になりましたが、誰もが住みたくなるまち『四国のまほろば美馬市』を目指し、これからも「共創・協働」を基本理念に市民一人ひとりが主体となったまちづくりを推進してまいりたいと考えておりますので、関係機関の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

